

令和 3 年 6 月 15 日現在

機関番号：32202

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K12312

研究課題名(和文) 助産外来を活用した妊娠糖尿病女性への妊娠分娩産褥期の継続的な支援の介入評価研究

研究課題名(英文) Intervention evaluation study of the continuous support for the women of pregnancy diabetes mellitus from pregnancy to puerperium at midwifery outpatient clinic

研究代表者

成田 伸(Narita, Shin)

自治医科大学・看護学部・教授

研究者番号：20237605

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：妊娠糖尿病は母児に大きく影響し、2型糖尿病発症リスクが高く、病の受容、療養行動の獲得、産後の発症予防が求められる。予防には母乳育児と産後体重復帰が効果的で、助産師外来を通じた妊娠期から産後に継続する支援が重要である。そこで、助産師対象の糖代謝異常妊産褥婦を支援する看護実践セミナーを開催すると共に、日本母性看護学会を通じて、在宅妊娠糖尿病患者指導管理料の改訂に働きかけ、2020年4月「産後12週まで」に1回追加となった。その実施は助産師外来に限定されていないが、2020年度セミナーにはこの診療報酬の内容を加え、助産師外来での支援に結び付けてきた。その成果の評価については今後に残されている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

糖尿病罹患は種々の合併症に繋がり、人々のQOL障害、医療費負担増等、社会に多くの負担を与える。急増しつつある妊娠糖尿病は、2型糖尿病伸展の可能性が高く、妊娠糖尿病既往女性に対する糖尿病発症予防の働きかけは、2型糖尿病発症を予防する意味で、今後重要な課題となる。本研究は妊娠という負荷で明らかとなった女性の生涯の健康に影響する要因に対する働きかけの必要性を明確化した点で意義ある研究である。

研究成果の概要(英文)：Because gestational diabetes mellitus greatly influences women and fetuses, and a type 2 diabetes onset risk is high, acceptance of the illness, the onset prevention of the after giving birth are demanded. There are evidences of breastfeeding and after giving birth weight reduction are effective for the prevention, therefore midwives' continuous support through the midwives' clinic from pregnancy period after to after giving birth is important. We held nursing practice seminars to support the glucose metabolism abnormality between pregnancy and after childbirth for the midwives. We attained the addition in the revision of pregnancy diabetic instruction management charges once for "until after giving birth 12 weeks" in pressure, April, 2020. The enforcement was not limited by midwives, but I added the contents of these medical service fees to a seminar in 2020 and tied it to support in the midwives' clinic. I am left about the evaluation of the result in the future.

研究分野：母性看護学

キーワード：妊娠糖尿病 助産師外来 連携 母乳育児 ウィメンズヘルスケア

助産外来を活用した妊娠糖尿病女性への妊娠分娩産褥期の継続的な支援の介入評価研究
Intervention evaluation study of the continuous support for the women of pregnancy diabetes mellitus from pregnancy to puerperium at midwifery outpatient clinic

1. 研究開始当初の背景

周産期に糖代謝異常状態にある妊産褥婦は増加しつつあり、特に妊娠糖尿病(以下 GDM と略)は診断基準が軽症に拡大されたために急増した。妊娠糖尿病妊婦は産科外来と内科の併診の状態にあり、助産師の糖代謝異常についての知識は十分とはいえ、結果として GDM 妊産褥婦への助産師による支援はあまり行われてこなかった。しかし、近年、GDM 既往女性の 2 型糖尿病発症予防にできるだけ長期間の母乳育児、非妊時体重への早期の復帰等が有効であるとのエビデンスが出てきており、GDM 既往女性への支援に助産師が積極的に関わることが必要な状況となっていた。

本研究に先立つ挑戦的萌芽研究「妊娠糖尿病女性への妊娠糖尿病認定助産師による産後継続支援に関する多施設共同研究」においては、GDM 既往女性に対する助産師による産後の継続支援の確立を目指し、助産師を対象とする糖代謝異常妊産褥婦を支援する看護実践セミナーを開始し継続し、助産師の実践レベルの向上を目指した。しかし、この研究の実践を通じて、GDM においては、診療報酬内で対応される妊娠中の厳格な管理と、産後血糖値が急速に改善した後の自費診療下での関わりが、継続する状況になっておらず、特に産後は既往女性自身の自覚下での実践に任されている状況が明らかとなった。そのため、「妊娠糖尿病を経験されたあなたに～より健やかな生活を目指して～」というパンフレットを作成し、その周知に努めた。

2. 研究の目的

本研究では、GDM の妊娠期から分娩期、産褥期まで継続した支援を、助産(師)外来を活用して行い、GDM 妊婦の妊娠中の療養生活の向上、分娩期・産褥早期のよい血糖コントロール、将来の DM 発症予防行動の実践向上を目指すものである。また介入は、GDM に限らず、周産期の糖代謝異常状態(1 型 DM、2 型 DM 含む)女性全体含む必要があることも明らかとなった。なお、助産外来については、日本看護協会が 2018 年に担当者を明確にする目的で助産師外来に統一すると公表しているため、本研究においては助産師外来の名称を持ちいる。

そこで、先立つ研究から開始していたセミナーの支援対象者を周産期・育児期に糖代謝異常状態にある女性に広げ、セミナーを受講し助産師外来を担当する助産師が、DM 外来療養支援担当者とチームを組み、連携して行うことを目指した。

助産師外来は産科病棟に所属する助産師が担うので、妊娠中の助産師外来、分娩・産褥期の産科病棟、退院後の助産師外来と継続し一貫したケアを受けることが可能である。一施設あたりの、助産師外来での対応可能人数や対象妊婦数はそれほど多くなく、また施設差があるため、本研究では、多施設共同で行い、研究対象となる妊婦の数を増やすことで、介入プログラムの有用性・汎用性を検証することを目指した。

また、これまでの成果を活かし、助産師外来での糖代謝異常妊婦・褥婦への支援の財政的基盤となる「在宅妊娠糖尿病患者指導管理料」の産後の獲得を目指し、診療報酬獲得を働きかけると共に、その獲得方法を当該セミナーの内容に追加することを目指した。

3. 研究の方法

- 1) 糖代謝異常妊産褥婦を支援する看護実践セミナーによる助産(師)外来担当助産師の育成
セミナーの支援対象者を周産期・育児期に糖代謝異常状態にある女性に広げ、セミナーを受講し助産師外来を担当する助産師が、DM 外来療養支援担当者とチームを組み、連携して行うことを目指した。
- 2) 助産師外来を活用した GDM 妊婦・褥婦への継続した支援の事例収集と分析
多施設共同で行い、研究対象となる妊婦の数を増やすことで、介入プログラムの有用性・汎用性を検証することを目指した。介入プログラムで活用可能な「妊娠糖尿病を経験されたあなたに～より健やかな生活を目指して～」というパンフレットの更新を行う。
- 3) 「在宅妊娠糖尿病患者指導管理料」の産後の獲得
最新のエビデンスを活用し、看護系学会等社会保険連合を通じた診療報酬に対する技術提案書を立ち上げ、「在宅妊娠糖尿病患者指導管理料」の産後の獲得を目指す。
- 4) 報告書の作成

4. 研究成果

- 1) 糖代謝異常妊産褥婦を支援する看護実践セミナーによる助産(師)外来担当助産師の育成
挑戦的萌芽研究でプログラム検討し、開催したセミナーは、本科研から研究代表者が担当する日本母性看護学会戦略的プロジェクトが主催するセミナーへと移行させ、本科研担当者がプログラム検討、講師担当で開催の実務を担ってきた。セミナーは好評で、2017～2020 年度の 4 年間で 200 名を超える助産師が受講を修了した。

また、これまでの活動の成果を公表する場として『助産雑誌』2020年4月号に「妊娠糖尿病～妊娠期から始める女性の健康支援」の特集を組んでもらい、「妊娠糖尿病診断から始める、2型糖尿病発症予防の支援」を研究代表者である成田が担当すると共に、科研メンバーがそれぞれ担当するに至っている。

2) 助産師外来を活用した GDM 妊婦・褥婦への継続した支援の事例収集と分析

介入プログラムで活用可能な「妊娠糖尿病を経験されたあなたに～より健やかな生活を目指して～」というパンフレットを適時期に更新した。

助産師外来での助産師による支援については、診療報酬上の対応がなく、その実践は、研究に積極的な少数の施設に留まり、その有効性を統計的に明らかにするには至らなかった。

そのうち、上述した助産雑誌の特集において、「妊娠糖尿病妊婦への支援～自己血糖測定をせずに血糖管理を行った事例」について、科研メンバーが分析に関わり、その結果を公表している。この事例においては、本科研が目指した助産師外来での妊娠期から産後に継続する支援について体制整備できていたが、自己血糖測定の対象とならない軽症 GDM 妊婦であったために、内科医師の関わりが薄く、妊娠期に求められる厳格な血糖コントロールを逸脱していた可能性があり、結果として出生児は heavy for dates 児で重症低血糖を発症するに至っている。当該施設では、この事例の経過から、自己血糖測定を用いた厳格な血糖管理の必要性を痛感し、自費での自己血糖測定をより安価で負担を軽く実践できる体制を整備している。

本科研が最終的に目指した、助産師外来を担当する助産師が、DM 外来療養支援担当者とチームを組み、連携して行うことは、産科の枠を超える実践の難しさが障害となり、実践するまでには至らず、今後の課題として残っている。

3) 「在宅妊娠糖尿病患者指導管理料」の産後の獲得

最新のエビデンスを活用し、看護系学会等社会保険連合を通じた診療報酬に対する技術提案書を立ち上げ、「在宅妊娠糖尿病患者指導管理料」の産後の獲得を目指した。その結果、2020年4月に産後12週までに1回の実施を獲得できた。その成果を広く周知し、助産師外来での実践につなげる目的で、「在宅妊娠糖尿病患者指導管理料手引き」を作成し、今後の周知活動に用いる予定である。

ただし、2)で報告した事例にあるように、軽症 GDM においては、自己血糖測定が診療報酬上算定されず、妊娠中の厳格な血糖管理に至らないことが明らかである。そこで、現在、「在宅妊娠糖尿病患者指導管理料」の対象者に軽症 GDM 妊婦を加える診療報酬改定案を、日本助産師学会と共同提案している。

4) 報告書の作成

本科研で取り組んできた成果については、「在宅妊娠糖尿病患者指導管理料手引き」に集約されたため、それを報告書として公表している。

前述したように、本科研が最終的に目指した、助産師外来を担当する助産師が、DM 外来療養支援担当者とチームを組み、連携して行うことについては、報告書として作成した「在宅妊娠糖尿病患者指導管理料手引き」をセミナーを通じて周知し、その活用をセミナー受講者を共有することを通じての実践を目指していく予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 成田伸	4. 巻 74巻4巻
2. 論文標題 妊娠糖尿病診断から始める女性の長期的な健康支援-元気なお母さんでいることの支援	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 助産雑誌	6. 最初と最後の頁 240-246
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 成田伸, 松原まなみ, 坂梨薫, 林佳子, 山田加奈子, 出井陽子	4. 巻 74巻4号
2. 論文標題 在宅妊娠糖尿病患者指導管理料が産後に拡大！	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 助産雑誌	6. 最初と最後の頁 247-249
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森重圭子, 松井千佳, 山田加奈子, 成田伸, 岡田健太	4. 巻 74巻4号
2. 論文標題 【事例から考える】妊娠糖尿病妊婦へ支援-自己血糖測定をせずに血糖管理を行った事例-	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 助産雑誌	6. 最初と最後の頁 254-262
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山田加奈子, 川口弥恵子, 松井弘美, 笹野京子, 工藤里香, 小嶋由美, 立木歌織, 大平光子, 成田伸, 松原まなみ	4. 巻 19
2. 論文標題 周産期母子医療センターにおける妊娠糖尿病妊産褥婦の管理と看護支援の実際	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本母性看護学会誌	6. 最初と最後の頁 39-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川口弥恵子, 山田加奈子, 工藤里香, 笹野京子, 松井弘美, 小嶋由美, 立木歌織, 大平光子, 松原まなみ, 成田伸	4. 巻 18
2. 論文標題 妊娠糖尿病に対する産後フォロー体制 - 妊娠糖尿病の治療を行なっている周産期医療施設に対する聞き取り調査から -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本母性看護学会誌	6. 最初と最後の頁 47 54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件 (うち招待講演 3件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 川口弥恵子, 井口亜由, 俵由里子, 松原まなみ, 成田伸, 松井千佳, 森重圭子
2. 発表標題 妊娠糖尿病妊婦の妊婦健診における助産師の関わり: 保健指導記録の分析
3. 学会等名 第21回日本母性看護学会学術集会 (広島市)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松原まなみ, 川口弥恵子, 俵由里子, 成田伸
2. 発表標題 妊娠糖尿病管理における多職種連携と助産師の役割: 上級看護実践者へのインタビュー調査から
3. 学会等名 第21回日本母性看護学会学術集会 (広島市)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 成田伸
2. 発表標題 周産期の糖代謝異常の考え方と対応
3. 学会等名 第21回日本母性看護学会学術集会 (広島市) (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 成田伸
2. 発表標題 妊娠糖尿病女性への助産師のかかわりと連携
3. 学会等名 第60回日本母性衛生学会学術集会（浦安市）（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 成田伸
2. 発表標題 妊娠糖尿病既往から考える女性の長期的な健康支援
3. 学会等名 第34回日本助産学会学術集会インターネット学術集会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yoko Idei, Shin Narita
2. 発表標題 CURRENT STATE OF DIAGNOSIS, TREATMENT PROCESSES, AND NURSING SUPPORT FOR PREGNANT WOMEN DIAGNOSED WITH GESTATIONAL DIABETES MELLITUS AT HOSPITAL A: A CASE STUDY
3. 学会等名 22nd East Asian Forum of Nursing Scholars(Singapore)（国際学会）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担 者	望月 明見 (Mochizuki Akemi) (30289805)	自治医科大学・看護学部・講師 (32202)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
連携研究者	松原 まなみ (Matsubara Manami) (80189539)	関西国際大学・保健医療学部・教授 (34526)	
連携研究者	山田 加奈子 (Yamada Kanako) (90583740)	大阪府立大学・看護学類・講師 (24403)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------